



### フルテックの新しいアクセサリー 空き端子に挿すだけでクオリティアップ NCFクリアラインに信号系モデルが新登場

NCF Clear Lineは、空き端子に差すだけで、端子から誘導されるノイズをチューニング処理するパッシブタイプのアクセサリ。すでに好評の電源用に続き、機器の出力または入力端子に直接装着する信号系の「ラインオプティマイザー」も新登場した。先頃新開発された同社最高峰RCAとXLRプラグの技術も応用し、音の色付けをせず、埋もれていた音源本来の魅力を引き出す強力な効果を実現。その効果を炭山アキラ氏が検証した。

#### FURUTECH NCF Clear Line-XLR(F)

¥39,380 / 1個、税込 (出力用、左から1番目)



Text by  
炭山アキラ  
Akira Sumiyama  
Photo by 田代法生



#### FURUTECH NCF Clear Line-XLR(M)

¥39,380 / 1個、税込 (入力用、左から2番目)



#### FURUTECH NCF Clear Line-RCA

¥28,380 / 1個、税込 (右側の2つ)

本シリーズの製品カテゴリーは「ラインオプティマイザー」(Line optimizer)。使用する製品の入力および出力回路の構成によっては、左右チャンネルを同時に使用(2個使い)した方が、より理想的な作用が望める

#### 本シリーズの主な特徴

- センターピン内部に静電気対策としてフルテックの特殊素材「NCF」を注入したAlpha QCCロジウムメッキのワンピース中心導体
- 全てのコネクタ、導体の金属部品は、フルテックの2段階の超低温処理および特殊電磁界処理「α-Process」を採用
- エンドカバーは、NCF配合耐熱性ナイロン樹脂製で振動を効果的に吸収
- 優れた振動減衰特性を持つマルチマテリアルハイブリッド構造を採用

入念な作り込みと構成により再生音を劇的に高めてくれる

フルテックのNCF Clear Lineは、2年ほど前に電源プラグ型のコンデイションナーが登場したと記憶している。それまでもいくつかの社より同タイプのグッズは発売されていたが、本製品は安価な割に大変効果的で、高く評価したものだ。NCF樹脂による振動および静電気の除去と空芯コイルによる高周波のキャンセルが主眼で、本品自身が共振して余分な音を付け加えることを避けるため、カーボンと樹脂の複合による筐体とされている。

2023年のフルテックは、RCAとXLRのジャックへ挿せるノイズ・トリートメント製品へレンジを広げた。RCAは入出力共通だが、XLRは入力用と出力用の両方が用意されている。こちらのトリートメントは、厳選されたセラミックコンデンサーで高周波をキャンセルすることがその主眼のようだが、そのコンデンサーに制振塗装が施されているのも見逃せない。素子の振動は意外と音質へ大きな影響を与えるものだからだ。RCAの中心導体とXLRオス側のピンは中空構造ロジウムメ



「NCF Clear Line-RCA」はコレットチャック機構を備え、最良の効果を得るためにはロックしての使用を推奨(ボディは回さず、ハウジングのみを回して使用)



「NCF Clear Line-XLR(F)」と「NCF Clear Line-XLR(M)」。同社最高峰のXLRプラグの優れた構成を継承した設計によって、より効果的にクオリティアップに貢献する



構造図(右がRCA、左がXLR)。独自の静電気と振動を低減するNCFや高品位素材を、特殊設計で採用する



電源用の「NCF Clear Line」(¥27,588、税込)。空きコンセントに差し込むだけで効果を発揮

残念ながらXLR出力端子に空きがなかったため実験はここまでになったが、数を増すに連れて効果を高めるこの飽和点のなさは、同社NCF Boostert以来の驚きだ。価格も低廉だし、幅広い人に薦めたいグッズである。

ツキOCC導体の中へNCF樹脂を充填、劇的な制振性と除電能力を有する。導体にはもちろん全て超低温+電磁波による独自のαプロセス処理済みである。絶縁体ももちろんNCF樹脂だ。RCAのケース側はコレットチャック構造となっており、必ず締めて使うように記載されている。ハウジングは強靱なステンレス鋼とNCF+カーボンを主素材とした4層構造によって構成され、素子を取めた空間は密封することにより、内部の空気が抵抗となつて素子の振動を抑えるという。

自宅リスニングルームで聴いた。まずリアンプのDACボードへRCAタイプを1個取り付けると、クラシックは一気に音場が濃厚になり、オケの音場が半歩前へ出たかという大迫力に痺れる。リットは声のビビッドさを一切削ぐことなく、まろやかな質感を加えるように感じる。ジャズはウッドベースの音像が実体感を増し、ドラムスは切れ味鋭く軽やかな中に厚みとコクを加える。一方フュージョンでは、何も取り付けていなかった時に少々気になっていたエレキベースの重苦しさが軽減されるのだから、いろいろな効き方を試すものだと感心する。ポップスは音の立ち上がり/立ち下がりが

が向上し、パルシブなサウンドを大いに盛り上げる。基本的にS/Nを高めるのが大きな作用かと思つてたのだが、どうもそれだけではないようだ。テスト用のオプティマイザーは2本ずつ送られてきたので、今度アナログの空き入力に2本挿してみると、おお、音場が一気に広がったぞ。オケは再び半歩下がり、しかし1本挿し時の濃厚さは揺るがない。いやはや、これは大変な聴き心地だ。声もピアノと歌い手

の間に広大な空間が広がる。ジャズは音の粒が空間へ飛び散つていくのが快感だ。ポップスは音がほぐれ、音場成分が濃くなった。RCAタイプは入力よりも出力端子で効くということなので、リアウトへ挿してみると、オケは確かに音のキメがさらに細かくなり、音像がさらに半歩下がったような印象がある。何とも広大なステージ感である。声はピアノに輝かしさが宿り、声もどんと伸びる。ジャズは異様なまでのドラム

スの生々しさと、負けずに軽く弾むウッドベースが素晴らしい。ポップスも音場が別物のように広がる。長年聴き慣れたソフトだが、こんな音が入つていたのだと目を丸くすることになった。お次はXLRだ。まず空き入力へ挿すと明確にノイズフロアが下がり、これまで聴こえなかったオケの成分が耳へ飛び込んできてギョツとする。歌は声の質感が太く豊かになり、歌い手の込めた抑揚が心臓へ響く。ジャズは生の息吹が濃く、力強く響き渡る。ポップスは音像の輪郭が細くしなやかになり、どつしり構えた声の周辺から虚空へ、シンセサイザーの音場が渦を巻く。RCAに加えて聴いているのだから効果が重畳するのは当然だが、それにも引き出される潜在力はかなり大きい。